

2018年度 本部事業報告

1. 概況

2018年度は、法人本部のコーディネート機能の強化の基で、障がい福祉サービス事業の更なる収益改善を実現できた。2019年度へ向けて必要な職員を補充しつつ黒字の維持を図れる見込みがついた。高村保育園も2018年11月に無事稼働でき、園庭工事も2019年5月末に完了予定となっている。明石町保育園複合施設の土地賃借の更新は、貸主と順調に契約更新を完了させることができた。

2018年7月障害福祉サービス事業所（ベンチ、あやとり、かっぱどっくり）の実地指導、2018年9月法人の指導監査が行われ、細かな点の指摘を受け経営に生かすことができた。

2. 事業の実績

（1）理事会・評議員会の開催

2018年6月5日【決算理事会】2017年度事業報告、及び決算報告、社会福祉充実残額、規程類の改訂、小規模保育事業の応募、評議員会の開催

2018年6月21日【決算評議員会】2017年度事業報告、及び決算報告、社会福祉充実残額

2018年11月6日【補正予算理事会】就労定着サービス開始、事業所概況報告、高村保育園改築資金、小規模保育所の開設、第1次補正予算、規定類の改訂、横内保育園の賃料有償化、定款変更、評議員会の開催、管理職人事

2018年11月6日【評議員会】定款変更

2019年3月19日【予算理事会】就労移行サービス廃止、規定類の改訂、第2次補正予算、2019年度事業計画及び予算、管理職人事

（2）障がい福祉サービス事業の収益改善

資金収支上では、2017年度障害福祉サービス事業合計（貸付借入金、繰入金を除く）は－6.7百万円に対し、2018年度は＋14.6百万円と改善された。

3. 事業の重点結果

（1）法人本部のコーディネート機能の強化

所長会は毎月定期的実施し、毎回收支状況及び利用者の状況をお互いに確認し、収支及びサービスの向上を図ることができた。県の実地指導があった事もあり、内部監査は実施しなかった。2019年度は内部監査を実施する。

園長会は12回/年実施し、園児の入所状況とそれに対する職員配置、採用状況の確認を中心に研修のあり方の検討及び受講の確認を実施した。

（2）取引銀行の変更検討

今の取引銀行は、窓口の使い勝手が非常に良いが、銀行としての評判があまりよくない為、ゆうちょ銀行に変更することを検討した。2019年度から一部の銀行業務を移行していく。

2018年度 平塚保育園事業報告

1. 概況

2018年度は、4月入所率が111%（150人）と、29年の113%を下回ったが、0歳児の入所が11名と29年度より3名多いスタートであった。10月には、108%（146人）となるが、0歳児の入所を増やし、3月には、111%（150人）となった。

2. 事業の実績

（1）利用実績（単位：人）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児(人)	11	11	11	11	10	10	10	12	12	12	12	13
総数(人)	150	149	148	148	146	146	146	149	149	149	149	150
入所率(%)	111	110	109	109	108	108	108	110	110	110	110	111

延長保育事業の年間利用費収入は、2016年度1,205千円、2017年度1,041千円、2018年度968千円と年々減少している。

一時預かり保育事業の利用児は、2018年度が4時間未満138名、4時間以上256名となり。2017年度の4時間未満207名、4時間以上246名と、年々利用が減少している。

病後児保育室事業の利用者は、2016年度311名、2017年度262名、2018年度239名と年々利用が減少している。

3. 事業の重点結果

（1）研修への派遣と保育の質の向上

2018年度は、計画的に研修に派遣することが出来、研修後には職員の意識の向上が感じられた。研修での学びをもとに、保育室環境の見直しや感染症予防対策などの改善が図られ、保育の質向上につながった。園内研修では、一年を通じて一人の子どもの成長を追うことをテーマに、全職員で考えを出し合い、子どもの見方を学び、様々な意見を尊重する事で職員の自信、意欲につなげるよう意識した。

（2）労働環境の改善

有給休暇取得を促進するために、シフトの見直し、職員連携の意識向上や、非常勤職員の勤務時間調整などの協力を得ることで、休みの職員をフォローできる体制を整えるよう努めた。その結果、平均5日の有給休暇の取得につながった。しかし、非常勤職員の有給休暇の十分な取得に至らなかったため、改善していきたい。

4. 施設・設備の整備結果

- ・避難者置き場屋根の設置（364千円）
- ・保育室スロープ設置（176千円）
- ・排気ダクト付け替え（340千円）
- ・避難台車4台（531千円）
- ・ミニクローラ（266千円）
- ・ベランダ隙間塞ぎ（1,061千円）

2018年度 柳町保育園事業報告

1. 概況

2018年度は、4月の入所率が102%(113人)で2017年度の102%(113人)と同様のスタートを切り、9月には106.36%(117人)3月には108%(119人)となった。

2. 事業の実績

(1) 利用実績 (単位:人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	5	5	5	5	7	8	8	8	8	9	9	9
総人数	113	113	115	115	115	117	117	117	117	119	118	119

0歳児は障がいのあるお子さんの入所や職員休職等があり、増員は慎重に行った。

(2) 延長保育事業、一時預かり事業の実績

延長保育は、利用児童数は2017年度が73名1,065千円、2018年度は71名1,404千円となった。

一時預かりは、利用児童数は2017年が378名776千円、2018年度は32名83千円と激減した。

3. 事業の重点結果

(1) 園内研修

改定された保育所保育指針に則り「子ども主体の保育と環境」をテーマとして取り組み、経験や担当クラスの枠を越えたグループで研究した。他グループの研究と横断して進める中で、子どもの育ちを読み取ることが出来ることもあり、それとともに環境作りの大切さ難しさを実感した。その取り組みの中で栄養士は、子どもの苦手な野菜克服について研究し、食からも子ども主体の保育の環境作りの可能性を探る事が出来た。

(2) 保育士の育成

園長と主任間での会議の中で「園全体の保育士が後輩の育成が苦手」であることに気付いた。午睡の時間を利用して2歳児のケース会議を、意思疎通や共通理解を目的として行った。また主任会の話題から園の保育目標を明確にし、そのイメージを職員会議でディスカッションし共有することで、先輩職員から後輩職員への育成に繋げることが出来るようになった。

まだ道は途中であるが「子ども主体の保育に対する理解度」「子どもの育ちを見極められる目」についての課題が残っており、2019年度も引き続き実施していく。

(3) 勤務の状況

怪我や体調不良で長期に休む職員がいたが、限られた人数の中で必然的に考えて行動することによって、工夫したり、相手の状況を理解して行動したりすることを学ぶ機会となり各自のスキルアップにつながった。

4. 施設・設備の整備結果

・中階段改修工事 1,145千円(内補助金500千円)

・玩具収納庫 531千円

2018年度 明石町保育園事業報告

1. 概況

2018年度は、4月の入所児数に対し職員配置数は1.6名加配の状況でスタートした。推移については4月～9月までは子どもの入所人数に変動なし。10月より、非常勤職員の採用に伴い0歳児を3名受け入れた。11月には育休職員が1名復帰の為、0歳児を更に2名受入れ入所率116%となるが、1月より保護者の転勤に伴う兄妹退所があり最終的に114%となった。

2. 事業の実績

(1) 利用実績 (定員：90人)

	4月～9月	10月	11月～12月	1月～3月
0歳児(人)	9	12	14	14
総児童数(人)	100	103	105	103
入所率(%)	111	114	116	114

(2) 延長保育事業の実績

18～19時までの1時間延長であるが、2016年度1,460千円をピークに年々利用数が大幅に減少しており、2017年度1,021千円、2018年度736千円と285千円減となった。

3. 事業の重点結果

(1) 保育士勤務体制

2018年度当初、職員配置数に1.6名の加配があったことに加え、入所児が変動なく安定していたことも大きく影響し、職員のゆとり保持と有給休暇を取得しやすい体制がほぼ整った。

また、11月には常勤職員1名の退職があり職員配置数上のゆとりはなくなったが、年度後半ということによる子どもの成長に伴い、さほど影響はなかった。

(2) 保育の質の向上

2017年度に引き続き「子どもの主体性を引き出す保育環境づくり」を課題にし、乳児・幼児それぞれ試行錯誤しながらではあるがよりよい環境づくりに努めてきた。

園長としても、「環境の中から見える子どもの育ち」と「保育指針改訂のポイント」という内容でそれぞれ資料を作成し、会議の中で読み解きながら職員の学びの機会とした。

(3) 園内研修の充実

毎年継続している「一人一人の自己発揮」を課題にした研修を行った。互いの良い所を認め合い、あえて言葉にして伝えあうことで、いつの間にか自信を持ってそれぞれが自己発揮できるようになり、その成果を職員それぞれが実感することができている。

4. 施設・設備の整備結果

- ・厨房送風機の取替工事(864千円)
- ・厨房給湯器取替工事(346千円)
- ・ブロック塀調整工事(466千円)
- ・事務所入口自動扉改修工事(600千円)

2018年度 横内保育園事業報告

1. 概況

2018年度は、4月の入所率が87%(104名)で始まり、3月では入所率90%(108名)であり、入所率が年々減少している状況である。2017年度は、3月入所率96%(116名)であった。

2. 事業の実績

(1) 利用実績 (定員: 120人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	3	4	5	5	5	7	8	9	9	8	8	8
総児童数	104	102	104	103	103	106	107	109	108	108	108	108

(2) 延長保育事業、一時預かり保育事業の実績

延長保育は、2016年度277千円、2017年度442千円、2018年度411千円。実利用人数は少ないが、毎日ではないが19時過ぎのお迎えの園児がおり、収入は2016年度に比べ増えている。

一時預かりは、2016年度586千円、2017年度198千円、2018年度204千円。入所を希望している待機児が利用し、入所に繋がっている。利用者は、極めて少ない。

3. 事業の重点結果

(1) 研修の状況

キャリアアップ研修(保育センター、日保協)に副主任、専門リーダー、職務分野別リーダー等を派遣。障がい児対応のために平塚市子ども発達支援室くれよん主催研修等に参加。

(2) 外国籍や生活困窮者への支援の強化

年々増加する外国籍児童の利用者への対応は、様々な方法でコミュニケーションを図れるように、保育士たちは試行錯誤と努力をしている。配布物は、ほとんど見ていないことが多いので、ひとりひとり口頭で説明をしながら、対応をするが、理解されていないことがある。

生活保護世帯や低所得者世帯への対応として、フードバンクからの提供品の配布や、個人的に欲しいものが発注できるシステムへの支援している。問題がある多子家庭の低体重の第5子に対し、保育園で摂食状況や体重の変化を毎月保健師とやり取りをしながら、見守っている。

(3) 有給休暇取得状況

常勤職員平均8.5日。非常勤は、比較的取れている。

(4) 厨房職員

厨房職員の人間関係が難しく、4月入職の栄養士が12月で退職し、他園からの応援をいただきながら、給食を滞りなく提供することに努めた。

4. 施設・設備の整備結果

・安田式テクノロマン八角ジム(486千円)

2018年度 高村保育園事業報告

1. 概況

2017年度(2018年1月)より着工となった新園舎が10月末に完成を迎え、11月より新園舎での保育となった。園庭がない1年間となり不自由な部分もあったが、建てられていく園舎や工事車両、工事作業を目の当たりにして新園舎での生活を楽しみにしたり、公園利用を中心に地域に積極的に出ていく機会を増やせたりと、貴重な体験のできる1年となった。

2. 事業の実績

(1) 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児(人)	12								15			
総園児(人)	136		135	134	135	134	138	143	146			
入所率(%)	113		113	112	112	99	102	106	108			

11月に定員135名へ変更し、引っ越しが終わった12月より新入園児の受け入れを行った。2月には146名まで増やし、年間平均入所率は109%となった。(2017年度の平均入所率は111%)

(2) 延長保育事業、一時預かり事業

延長保育の利用児童は、2017年度349千円比較して2018年度328千円とやや減となった。

一時預かりは、入所要件がなくなってしまった児童(母親が出産後就労を見合わせる等)により、利用児数は増加した。2017年度488人1,244千円、に対し2018年度843人1,560千円であった。

3. 事業の重点結果

(1) 園舎建て替えに伴う保育の工夫及び、新園舎での環境について

園庭が使えなく、戸外あそびは近隣の公園での保育となった。1日を通して園外にでていくようになったことで、公園での遊び方や交通ルール等、体験から取得し、上手に歩けるようになっている。日常的に園庭を走り回っていた頃から比べると、体力や走力等の低下も見られ、今後の課題としたい。

新園舎での保育が始まった当初は、その環境の変化に子どもたちも感覚がつかめず小さなけがが増えたり、乳児は場所見知りしてしばらく泣いてしまう日が続いたりする様子があった。徐々に子どもも保育士も感覚をつかんでいったことと、子どもの様子に合わせて環境をこまめに見直しすることで改善を図っていった。園庭側のバリエーションのせいもあるのか、幼児室の子どもたちの声の反響が大きく、落ち着いた環境を作っていくことに苦慮している。全工事が終了した時点で見直しや工夫が必要と考えている。

(2) 年休取得率の増加

4月より、計画的にすすめ、目標にしていた付与日数の半分の取得について、平均取得率は62%と達成することができたが、栄養士が数名目標に満たなかった。今後の課題としたい。

4. 施設・設備の整備結果

園舎建て替え工事

2018年度 錦町保育園あねら事業報告

1. 概況

2019年4月1日開設をめざし、定員0歳児5名、1歳児7名、2歳児7名の小規模保育事業の認可の申請をした。市からの認可を受け、入札を経て改修工事を12月～2月にかけて行った。

2. 事業の実績

なし

3. 事業の重点

(1) 保育士体制の強化

職員配置については、園長1名、主任保育士1名、常勤保育士3名、非常勤保育士4名を配置した。

(2) 事前準備の状況

2019年4月の開設に向けて1ヶ月前から4回程研修を設けた。「大切にしたいこと」をテーマにグループワークや散歩マップの作成、手作りおもちゃの作成、社会人としての心構えなどを通じて職員の意識統一を図った。

(3) 課題

平塚市内で初めての小規模保育事業ということで新たな運営について模索していかなければいけない。

4. 施設・設備の整備結果

改修工事、保育教材

2018年度 つどいの広場『もこもこ』事業報告

1. 概況

2018年度は、11月に金目保育園内につどいの広場「ここにくらす」(火～木)10時～15時が開設したが利用者数に影響はなかった。利用者数は、リピーターが多かった。子育ての悩み等の相談実績件数は年間532件であった。

2. 事業の実績

(1) 利用実績(うち新規登録者親子組数)

2017年度 7,778人(412組)

2018年度 8,753人(337組)

3. 事業の重点結果

(1) イベントの実施

イベントは親子で楽しめるものに人気があり、利用者数が多かった。イベント時はボランティアや湘南福祉センターの保育士・栄養士を派遣し実施した。

(2) 研修実施による専門性の向上

専門の講師・伊志嶺先生に職員研修を依頼しファシリテーターとしての技能の獲得や子育て支援に関する専門性の向上を図った。

(3) 情報交換

行政機関との連携を図り、他の子育て広場との連絡会に参加し情報交換を行った。

4. 施設・設備の整備結果

・保育室(一部分)とキッチンの床の張替え(550千円,委託費内)

2018年度 放課後児童クラブ事業報告

1. 概況

2018年度3月は、例年並みに高学年の退所があり、2019年度も待機児を出すことなく4月を迎える。

平塚市青少年課の予想では、今後児童数は減少傾向と予測はしているが、小学校と連携を取りながら情報を共有し様子を見ていく。みやのまえにおいては、東側マンション（平塚保育園北側）の入居が始まる為、世帯構成によっては、入所希望が見込まれる可能性がある

ここ数年、長期休みの利用希望（平日は、習い事等で利用せず過ごせるため）の問い合わせがある。当放課後児童クラブは、保護者との確認がとれれば、「ひとり外出」が行えるため、利用児童の習い事率が増え、長期休みだけの利用希望があるが、年間契約の為受け入れてはいない。

2. 事業の実績

（1）利用者推移（）内は、1年生

	2018年3月	2018年4月	2019年3月	2019年4月
そうぜん第一	41	52	41	48(12)
そうぜん第二	47	53	43	45(11)
みやのまえ	49	56	52	55(13)
まつばら	51	55	47	55(17)

3. 事業の重点結果

（1）運営ビジョンの共有

2018年度は、各施設が「チーム支援」を行いかつ、各課題(施設)を月例会議等で話し合い、また、利用児童の支援課題等を共有できる1年とした。2019年度も継続する。

（2）施設内研修

2018年度も継続して、こども発達相談センター・ベンチ（法人内）の協力により施設内支援員研修を行い、スキルアップを図った。

（3）まつばら放課後児童クラブ改修工事

旧幼稚園施設の為、児童利用には環境面（家具の大きさ等）で使用しづらい点があった。「文化交流課」の移転に伴い、保育室の改修を行い、倉庫を面談室・救護室とし、保育環境の改善を行った。

（4）水害対策

各施設に応じた、河川反乱・津波での水害対策を考えて避難訓練を実施した。2019年度も引き続き定期的に避難訓練を行う。

4. 施設・設備の整備結果

- ・まつばら放課後児童クラブ改修工事(6,877千円)